２　木造釈迦如来坐像　１躯　［有形文化財（彫刻）］

［所在地］　大和郡山市矢田町

［所有者］　金剛山寺

［法　量］　像高84.5cm

［時　代］　平安時代

［概　要］

金剛山寺に伝来した等身大の釈迦如来坐像である。台座に刻まれた銘文より、かつて経堂（現在の講堂）の本尊であったことが知られる。樟とみられる広葉樹材の一木造で、目尻が上がり鼻筋の通った端正な顔立ちや引き締まった体躯、体幹部と脚部の接合方法などは平安時代中期の特徴を示している。彫りは浅いものの、腹部や脚部には翻波式と呼ばれる特徴的な衣文表現が認められることからも、本像の制作は１１世紀前半に遡ると考えられる。

台座は後世の作に替わるが本体の保存状態は大変良好で、興福寺の長和２年（1013）の薬師如来像（重要文化財）や光堂寺の薬師如来坐像（県指定文化財）など県内に伝わるこの期の如来像に連なる優れた遺品である。

なお、本品は昭和２４年に重要美術品に認定されている。